

《大工棟梁に聞く》

日本の伝統建築の

真 | 行 | 草

“shin”

“gyo”

“so”

《竹中大工道具館特別講演会》

中村昌生 × 升田志郎

(京都工芸繊維大学名誉教授)

(大工棟梁・中村外二工務店)

Masao Nakamura

Shiro Masuda

2015. 2.7 sat. 13:00-16:00

竹中大工道具館 1F ホール (入場無料・先着 200 名)

主催 = 公益財団法人竹中大工道具館、一般社団法人伝統を未来へつなげる会



公益財団法人 竹中大工道具館
TAKEMURA CARPENTRY TOOLS MUSEUM

《竹中大工道具館特別講演会》

日本の伝統建築の真・行・草

数寄屋普請の基本は、丸太を選び、適材適所に使うこと、そして厳密には一本として太さも形も同じものはない丸太に、墨付をし加工して水平垂直の組み立てをする技術にあります。さらに茶室では、細い丸太を好むため壁も薄くなります。このような困難な条件の中で強固な建築を組み立てる数寄屋大工の仕事について名工との対談を通して解説していただきます。

日時	平成 27 年 2 月 7 日 (土) 13:00 ~ 16:00
場所	竹中大工道具館 1F ホール
基調講演	中村昌生 (京都工芸繊維大学名誉教授・福井工業大学名誉教授)
対談	中村昌生 × 升田志郎 (大工棟梁・中村外二工務店)
入場料	無料 (先着 200 名・申込み不要) ※常設展見学は別途入場料が必要となります

◎講師プロフィール



中村 昌生

1927 年生まれ。京都工芸繊維大学名誉教授。福井工業大学名誉教授。長年にわたり、茶室や数寄屋建築の研究・創作を続ける。日本建築学会賞、圓山文化賞、京都府文化特別功労賞など受賞。また同志と京都伝統建築技術協会を設立、現在理事長を務める。著書に『茶の建築』、『数寄の空間』、『数寄屋古典集成』等がある。



升田 志郎

1951 年京都市生まれ。67 年、数寄屋の名工として知られる中村外二棟梁に弟子入り。京都の様々な数寄屋師の技術を吸収し、25 歳のときから大工世話役 (棟梁) として茶室の墨付を任され、現在に至る。2014 年、厚生労働省「現代の名工」を受賞。代表作に京都迎賓館主賓室座敷、中里太郎衛門茶室、小松市仙叟屋敷・玄庵等がある。

〈お問い合わせ〉

竹中大工道具館

〒651-0056 神戸市中央区熊内町 7-5-1
TEL 078-242-0216 FAX 078-241-4713
URL <http://dougukan.jp/>



〈アクセス〉

山陽新幹線「新神戸駅」中央改札口より徒歩約 3 分
神戸市営地下鉄「新神戸駅」北出口 2 より徒歩約 3 分
シティ・ループ「12 新神戸駅前 (2F)」下車徒歩約 3 分
神戸市バス 2 系統・18 系統「熊内 6 丁目」下車徒歩約 2 分



※講演会の日時・内容は変更になることがあります。最新情報は竹中大工道具館ホームページにてご確認ください。